

静岡県初記録および分布北限記録のカルイシガニ

中西 健

〒415-0023 静岡県下田市三丁目22-31 下田海中水族館

Abstract

A single female specimen of the Horrid elbow crab *Daldorfia horrida* (Linnaeus, 1758) (carapace width 72.7 mm) was collected using a lobster gill net at a depth of 15 m from off Nakagi, Minami-Izu Town, Izu Peninsula, Shizuoka Prefecture, Japan. This species is widely distributed in Indo-West Pacific, but the northernmost location at which it had previously been recorded was from Kihoku Town, Mie Prefecture. This specimen is the first record of *D. horrida* in Shizuoka Prefecture, which extends the species known northern distribution limit. The crab's presence suggests that juveniles were transported along the Izu Peninsula coast and established themselves due to the prolonged Kuroshio Current meander, which is expected to last until April 2025.

はじめに

ヒシガニ科カルイシガニ亜科カルイシガニ属 (Parthenopidae: Daldorfiinae: *Daldorfia*) のカルイシガニ *Daldorfia horrida* (Linnaeus, 1758) は、幅が 20 cm を超える大型のカニ類である (川本・奥野, 2003)。本種は水深 5–275 m のサンゴ礁や岩礁域に生息し、日本国内では紀伊半島以南から記録されている (酒井, 1976; 武田, 1982; 三宅, 1983; 峯水, 2000; 川本・奥野, 2003)。今回、静岡県伊豆半島の南端に位置する南伊豆町において本種の標本 1 個体を採集した。本標本は静岡県からの初記録であるとともに、本種の分布北限を更新するものであるため、ここに報告する。

材料と方法

標本は 2025 年 9 月 20 日、静岡県賀茂郡南伊豆町中木において、伊勢海老刺網により水深 15 m

から採集された。採集後、下田海中水族館へ搬入し飼育展示を行ったが、2026 年 2 月 18 日に死亡したため標本とした。標本の計測にはデジタルノギスを用い、0.1 mm 単位で甲長および甲幅を計測した。計測値は「甲長×甲幅」で示した。当該標本は下田海中水族館の標本資料 (SFA) として登録・保管されている。

結果

Daldorfia horrida (Linnaeus, 1758)

カルイシガニ (Fig. 1)

検討標本 1 個体。SFA-11, 雌 (56.5×72.7 mm), 静岡県賀茂郡南伊豆町中木港内の水深 15 m (34°36'45.2"N, 138°49'27.3"E), 伊勢海老刺網漁, 渡邊正春。

同定 甲は三角形から五角形で、表面には大小の凹凸があり軽石状を呈する (Fig. 1A)。肝域はわずかに突出する。甲面は中央部の大顆粒、側縁に近づくにつれて小顆粒で覆われる。後側縁に左右 1 本の突起を有する。心域の両側は窪み、後方で融合しない。額は短く幅広で厚身がある。Inter-antennular spine は中央がくびれた瓢箪型を呈し、粒状で額棘には達しない (Fig. 1B)。第一触角基節が第二触角基節より長く、第二触角基節前縁外側が尖る。鋏脚は巨大で左右異なる。歩脚の長節上縁は 1 列で計 6 本、下縁は 2 列、各列 3 本の棘を有する。棘は鋸歯状ではない。腹甲は円錐形を呈し、第 6 節および第 7 節が特に高い。腹肢は 4 対有し、内肢と外肢に分かれる。生殖孔は円形で、直径 2 mm 程度で左右 1 対に有している。

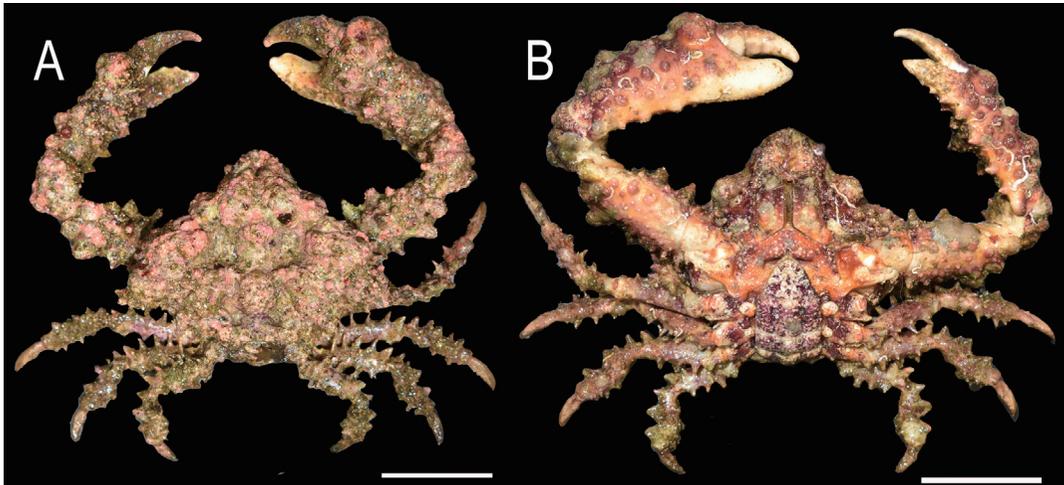


Figure 1. *Daldorfia horrida* (SFA-11) from southern coast of Izu Peninsula, Shizuoka Prefecture, Japan. Scale bar = 3 cm. A: entire animal, dorsal view. B: same, ventral view.

備考 本標本は、甲の輪郭が三角形ないし五角形を呈すること、鉗脚が歩脚に比して強大であること、第一触角基節が第二触角基節より長い、または同長であること、第二触角基節前縁外側が尖ることの形質から、カルイシガニ属 *Daldorfia* に分類される (和田, 1995; Tan & Ng, 2007a). さらに、甲および胸脚表面が粗いこと、鋏脚は左右で大きさが異なること、歩脚に独立した鋭い棘を有すること、歩脚の長節上縁は1列で計6本および下縁は2列で各3本の棘を有すること、前鰓域は膨らむが、原胃域より膨らまないこと、中鰓域縁に1本の棘を有することから、本標本をカルイシガニ *D. horrida* と同定した (酒井, 1976; Tan & Ng, 2007b).

本種はインド・太平洋に広く分布すると考えられていたが (酒井, 1976; 武田, 1982; 三宅, 1983; 峯水, 2000; 川本・奥野, 2003), Tan & Ng (2007b) はハワイ諸島産の個体群をラスバンカルイシガニ *D. rathbunae* または *D. dimorpha* として整理した. これに基づくと、本種の従来の北限は酒井 (1976) が報告した三重県北牟婁郡紀北町 (約 34°08'N) であったが、今回の静岡県賀茂郡南伊豆町 (34°36'45.2"N) からの記録は、これをわずかに北上させるものである.

近年、南方性甲殻類が温帯域で初記録される事例が増加している (乾ほか, 2019). その主な

要因として、黒潮を介した幼生分散の影響が指摘されている (例えば、浜崎ほか, 2019; 乾ほか, 2021; 尾山ほか, 2021; 山川ほか, 2022). 本種は黒潮流域の八丈島からも記録があることから (酒井, 1976), 2025年4月まで継続した黒潮の大蛇行 (気象庁, 2025) に伴い、幼生が伊豆半島沿岸へ運ばれ出現したものと考えられる. 今後、本種が伊豆半島周辺で定着し、個体群を維持しているかについて、継続的な調査が望まれる.

謝辞

標本を採集していただいた渡邊正春氏 (南伊豆町), および飼育に尽力いただいた下田海中水族館の魚類担当スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます. また、本報告を取りまとめるにあたり便宜を図っていただいた同館飼育課長の都築信隆氏に感謝の意を表する.

引用文献

- 浜崎活幸・犬塚創志・團重樹・北田修一. 2019. 三浦半島と房総半島におけるムラサキオカヤドカリの越冬と抱卵. 日本生物地理学会会報, 74: 8-12.
- 乾直人・山川宇宙・碧木健人・是枝伶旺. 2021. 2019年9月以降に相模湾およびその周辺地域から採集された注目すべきカニ類7種. 神奈川自然誌資料, (42): 135-141.
- 乾直人・山川宇宙・丸山智朗・加藤柊也・酒井卓・佐藤武宏. 2019. 相模湾およびその周辺地域の河川から採集された注目すべきカニ類11種. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 43-54.

- 川本剛志・奥野淳兒. 2003. エビ・カニガイドブック 2 沖繩・久米島の海から. 阪急コミュニケーションズ, 東京. 173 pp.
- 気象庁. 2025. 黒潮大蛇行の終息について ～過去最長の7年9か月継続～, 気象庁ホームページ. https://www.jma.go.jp/jma/press/2508/29a/20250829_end_of_kuroshioLM.pdf (参照 2026 年 2 月 28 日).
- 峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド海の甲殻類. 文一総合出版, 東京. 344 pp.
- 三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 保育社, 大阪. 277 pp.
- 尾山大知・加藤柊也・丸山智朗・乾 直人. 2021. 渥美半島周辺の河川で採集された注目すべき水生動物 14 種. 水生動物, 2021; AA2021-2.
- 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類 (Crabs of Japan and the Adjacent Seas). 講談社, 東京. 733 pp.
- 武田正倫. 1982. 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館, 東京. 284 pp.
- Tan, S. H. and Ng, P. K. L. 2007a. Descriptions of new genera of the sub-family Parthenopinae (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Parthenopidae). The Raffles Bulletin of Zoology, 16: 95–119.
- Tan, S. H. and Ng, P. K. L. 2007b. Review of the subfamily Daldorfinae Ng & Rodriguez, 1986 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Parthenopidae). The Raffles Bulletin of Zoology, 16: 121–167.
- 山川宇宙・簗手香緒理・乾 直人. 2022. 伊豆半島南岸で採集された静岡県初記録のスベスベサンゴヤドカリ. 東海自然誌, 15: 41–45.
- 和田恵次. 1995. 短尾下目. Pp. 379–418. 西村三郎 (編), 原色検索日本海岸動物図鑑 II. 保育社, 大阪.